

科目名	手話 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	井形 美子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	聴覚障がい、コミュニケーション問題に始まるが、手話は長い間、好奇と異端の目でみられ、ろう教育現場における手話排除という事情も加わって、聴覚障がいに対する認識は、手話蔑視の思想が先行し、聴覚障がいそのものへの認識が後からついてきた観がある。聴覚障がい者についてを理解し、スムーズにコミュニケーションを図れる事を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				聴覚障がい者と「見ることば」としての手話を学び、手話の特徴を選択することができる。	
	○					聞こえない人の呼称とコミュニケーション手段を説明することができる。	
	○					耳の構造を学び、聴力低下になることと障がいになる原因を説明することができる。	
				○		聴覚障がい者についてを意欲的に配慮することができる。	
			○			手話で自己紹介を表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「新・手話ハンドブック」三省堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	手話を効果的に学ぶために / 授業の際に必要な挨拶の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	2	手話とろう者 / 指文字表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	3	ろう教育 / 数字手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	4	聴覚障がい者の生活上の不便な点 / 自己紹介・挨拶の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	5	ろう者の職業 / 人間関係の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	6	ろう者への情報保障 / 年月・日時の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	7	ろう者とのコミュニケーション保障 / 聴覚障害者生活について			テキストを事前に読んでおくこと		
	8	聴覚に障がいがおきる仕組み / 場所の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	9	手話の歴史 / 仕事の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	10	手話単語の成り立ち / 主な名詞①の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	11	聴覚障がい者と接する際の心構え / 主な名詞②の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	12	自己紹介表現① 復習			テキストを事前に読んでおくこと		
	13	自己紹介表現② 演習評価			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	14	聴覚障がい者とコミュニケーション手段 / 自己紹介表現③ 趣味の手話表現			テキストを事前に読んでおくこと		
15	感想文作成 / 指文字表現復習 / 正試験出題範囲の説明			授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと			
評価方法	(1)手話発表(演習)を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・作品				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験(筆記)の受験資格を与えない。						

科目名	現代社会と福祉 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	伊東良輔		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	社会福祉の基本を学び、日本・海外の福祉の成立過程を知ることで現代社会の福祉の本質を考える。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					社会福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	現代社会と福祉 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会福祉の成り立ち1			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	2	社会福祉のなりたち2			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	3	社会福祉の成り立ち3			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	4	イギリスの福祉成立過程について			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	5	アメリカの福祉成立過程について			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	6	ノーマライゼーションの成り立ち1			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	7	ノーマライゼーションの成り立ち2			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	8	ノーマライゼーションの成り立ち3			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	9	児童福祉について1			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	10	児童福祉について2			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	11	障がい者福祉について1			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	12	障がい者福祉について2			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	13	高齢者福祉について1			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	14	高齢者福祉について2			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	15	前期のまとめ			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定しない。						

科目名	心理学理論と心理的支援								
科目名(英)	Psychological Theory and Psychological Support								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	福永聡子		
実施年度	2019年		実施時期	前期		実務家教員担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科 1年								
授業概要	①さまざまな心理学理論の基礎を学び、人の心の成り立ちや状態を理解する視点を習得する。②心理的支援とは何か、その方法について基本となるものを習得する。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○					さまざまな心理学理論を基に人の心の成り立ちや状態について説明できる。			
		○				日常生活の中に生かされている心理学について興味・関心を持ち、自身の日常生活と関係づけることができる。			
	○					心理的支援の意味を理解し、具体的な支援方法について説明できる。			
				○		人の心の仕組みを理解しようとする意欲と同時に自分の心の状態を見つめ理解しようとする基礎態度を身につける。			
テキスト・教材 参考図書	徹底図解 心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識								
授業計画 授業計画	授業回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	授業内容についてオリエンテーション、「心理学とは？」							
	2	心理学への招待「心理学とその歴史」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと			
	3	心と個性「性格心理学」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	4	心と個性「さまざまな性格理論」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	5	人との関わり「社会心理学～同調行動、群集心理、ステレオタイプ」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	6	人との関わり「社会心理学～合理化、PM理論、社会的ジレンマ」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	7	心の育ち方「発達心理学～乳幼児期から思春期まで」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	8	心の育ち方「発達心理学～青年期から成人まで」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	9	心のしくみ「心と脳」「知覚・学習・認知心理学」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	10	心のしくみ「学習・記憶・思考」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	11	心のダメージ「臨床心理学の基礎」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	12	心のダメージ「さまざまな精神疾患」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	13	心のケアと支援「心理的支援の方法と実践～カウンセリング、心理療法、心理アセスメント」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	14	心のケアと支援「コミュニティ心理学～ケアと地域支援」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。			
	15	まとめと復習				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。期末試験対策			
評価方法	(1)講義の終わりに感想・疑問点・気がついたことなどを記入・提出してもらう。(2)期末試験を実施する。(3)出席回数。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	◎				80%		
	宿題・レポート	◎	◎		◎		20%		
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定を行わない。								

科目名	保健医療サービス						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 1年						
授業概要	社会福祉士・精神保健福祉士が活動する場として医療分野がある。その他の分野においても医療分野との関わりは多く、相談援助の重要な社会資源でもある。この科目では、保健医療の概要や保健医療現場におけるソーシャルワーカーの役割等を学んでいく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					保健医療の概要について説明することができる	
	○					保健医療現場におけるソーシャルワーカーの役割を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 医療保険サービス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保健医療の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	医療保険制度の変遷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	医療保険制度の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	医療機関の類型と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	診療報酬の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	保健医療分野の専門職の理解 I			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	保健医療分野の専門職の理解 II			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	包括ケアシステムの理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	保健医療関係機関の類型と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	ソーシャルワークの変遷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	ソーシャルワーカーの役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	医療保険サービスの諸制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	事例研究 I					
	14	事例研究 II					
15	全体のまとめ						
評価方法	(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				90%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助の基盤と専門職 I							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	馬場 一美	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年							
授業概要	福祉の相談援助現場での社会福祉士、ソーシャルワーカーの役割や意義を理解する。ソーシャルワークの概念の歴史的發展過程を学び、実践的なソーシャルワークのために必要な専門的な知識・倫理などについても理解を深める、包括的支援法について教授する。また現代社会での生活問題(貧困や虐待など)にも触れ、ソーシャルワーカーの必要性や社会的役割の重要性についても理解する。							
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技: ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				ソーシャルワークの歴史やソーシャルワーカーの役割を学び、その重要性を説明できる		
	○			○		身近な社会問題について福祉的視点で捉えることができ、説明できる		
	○	○		○		身近な社会問題とその支援方法について調べ、まとめて説明できる		
	○	○		○		実際の現場での具体的な職務内容について学び、具体的に説明ができる。		
	○	○		○		ソーシャルワーカーとしての倫理観について基本的な内容を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク(ミネルヴァ書房)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(科目ガイダンス)ソーシャルワークとはなにか						
	2	ソーシャルワークが求められる社会状況 ◎身近な社会問題について知る(GW)					新聞やニュースなどで社会問題について読んでおく	
	3	ソーシャルワークが求められる社会状況 ◎身近な社会問題について支援の状況を知る(GW)					グループごとに取り上げた問題についての支援方法について調べておく	
	4	ソーシャルワークが求められる社会状況 ◎身近な社会問題から見える私たちが住みたい社会(GW)					グループごとに取り上げた問題についての支援方法について調べておく	
	5	ソーシャルワークの視点と役割 ◎ソーシャルワーカーの活躍している現場					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	6	ソーシャルワークの資格と仕事 ◎社会福祉士の役割と仕事や専門性					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	7	ソーシャルワークの定義と歴史① ◎ソーシャルワークのグローバル定義と誕生					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	8	ソーシャルワークの定義と歴史② ◎ソーシャルワークの発展					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	9	ソーシャルワークの定義と歴史③ ◎日本におけるソーシャルワークの歴史					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	10	ソーシャルワークを支える理念 ◎ノーマライゼーションと社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	11	ソーシャルワークの現場から ◎生活困窮者への支援からみえてくる問題					レポート提出	
	12	現代社会とソーシャルワーク ◎ソーシャルワークとはなにか					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	13	ソーシャルワークにおける倫理① ◎専門職と倫理綱領					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	14	ソーシャルワークにおける倫理② ◎倫理的ジレンマ					教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	15	前期の振り返り及び確認						
評価方法	①宿題やレポートを数回実施する。②定期テスト(筆記)を実施する。③出席や授業への関心・意欲・態度などを勘案し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				80%	
	宿題・レポート	◎	◎		○		10%	
	グループワーク・発表	○	◎		○		10%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定を行わない。							

科目名	相談援助演習Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	特別養護老人ホームにおいて 生活相談員として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年生						
授業概要	ソーシャルワーカーは自分自身を専門的に用いるための基盤となるコミュニケーション能力や自己理解が必要となる。本科目では、様々な価値観が存在することを認識し、自己を知り、他人とのかかわりの体験を通じ、受け入れることの重要性を学ぶ。そして、援助を必要とする対象の理解を深め、援助実践の基礎となる考え方とコミュニケーションのあり方を理解し、ソーシャルワークの基本技術について学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				価値観の違いが人と人との関係にどのような影響をもたらすかを述べるができる。	
	○	○				非言語的・言語的コミュニケーションの特性とその活用方法について述べるができる。	
		○				ジェノグラムから家族関係を読み取ることや、ジェノグラムを作成することができる。	
	○			○		演習を通して、自身の考えの変化を言語化し、文章に書き起こすことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・株式会社みらい「ソーシャルワーク演習ワークブック」 ・中央法規出版株式会社「相談援助演習教員テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション(相談援助演習の意義、注意事項)			次回、確認テストを実施する		
	2	アイスブレイキングー自分を知ってもらう方法			レポート課題を期日までに提出すること		
	3	自己理解ー「わたし」がみる私像、私のルール			レポート課題を期日までに提出すること		
	4	自己理解ー「わたし」のコミュニケーションスタイル			レポート課題を期日までに提出すること		
	5	他者理解ー価値観の違い、多様な価値観			レポート課題を期日までに提出すること		
	6	施設見学事前学習					
	7	施設見学			事前学習資料を確認しておくこと		
	8	施設見学			レポート課題を期日までに提出すること		
	9	施設見学振り返り					
	10	コミュニケーションー言語的・非言語的コミュニケーション			レポート課題を期日までに提出すること		
	11	当事者講演会			レポート課題を期日までに提出すること		
	12	当事者講演会振り返り			レポート課題を期日までに提出すること		
	13	ソーシャルワークの価値と倫理			レポート課題を期日までに提出すること		
	14	自主実習(ボランティア)について			自主実習届を期日までに提出すること		
15	前期まとめ確認テスト・振り返り			前期授業内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)定期テストは実施しないが、最終回で前期授業内容の確認テストを実施する。(2)レポート課題。(3)個人ワーク・グループワークを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				20%
	レポート課題	◎	○		◎		50%
	グループワーク	○	○		◎		20%
発表	○	○		◎		10%	
履修上の注意	毎回のレポート課題の提出期限を指示する。期限厳守で提出すること。 出席が10回に満たない場合は、単位を与えることができない。						

科目名	点字						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	吉住 寛之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	言語・コミュニケーション文化の一つである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深め、その支援の在り方について共に考える。視覚に障害のある人への情報支援や移動支援、その他関連する法律や制度の学習を通じて、支援のための実践的な知識と基本的なコミュニケーション能力を養う。点字については、その歴史や文化の成り立ち、合理的な仕組みと語の書き表し方について学び、簡単な読み書きが出来るように基礎的な実技の習得を目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○		△			視覚障害の特性に応じた基本的な、情報コミュニケーション支援(言葉での分かり易い説明や情報提供の仕方等)と移動コミュニケーション支援(声かけや接し方と屋内でのガイド等)ができる。	
		○	△			点字の技法については、その歴史と文化を踏まえ、簡単な点字の読み書きができ、点字による手紙のやり取りができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 『初めての点訳』第3版 NPO法人全国視覚障害者情報提供施設協会 『臨床に必要な障害者福祉—障害者福祉論』(福祉臨床シリーズ9)編集委員会編著 指田忠司共著 弘文堂 『世界の盲偉人』指田忠司著 桜雲会 ・『視覚障害教育入門』青柳まゆみ 鳥山由子著 ジアース教育新社 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス ①自己紹介 ②授業の勧め方 ③視覚障害のある人の状況			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	2	点字の基礎1 ①点字の歴史 ②点字の仕組み ③点字一覧表(清音)			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	3	点字の基礎2 ①点字の器具 ②点字の書き方 ③点字一覧表(濁音 拗音)			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	4	点字の基礎3 ①点字の読み方 ②点字一覧表(半濁音 拗濁音 特殊音)			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	5	語の書き表し方1 仮名遣い			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	6	語の書き表し方2 数字			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	7	語の書き表し方3 アルファベット			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	8	情報コミュニケーション支援 言葉による分かりやすい説明や情報提供の仕方			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	9	移動コミュニケーション支援 声かけや接し方と、屋内外でのガイド方法			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	10	分かち書き1 文節分かち書き			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	11	分かち書き2 複合語			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	12	分かち書き3 固有名詞			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	13	記号類と点字の手紙の書き方			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	14	視覚に障害のある人に関わる法律や制度			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
15	これまでのまとめと点字作品ワークショップ			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。			
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					60%
	課題(点字郵便)	○		○			20%
	授業毎の宿題	○		○			10%
	出席状況等				○		10%
履修上の注意	点字の実技があるため、毎回必ず、指定テキスト(『はじめての点訳第3版』)と携帯用点字器を準備すること。視覚に障害のある人の体験型ワークショップを行うため、各自アイマスクを準備すること。点字の実技についてはテキスト・配布資料等を参考にし、自宅においても予習、復習すること。						

科目名	対人心理学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	富沢 理恵		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	ここ十数年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身のコミュニケーション」を凌駕しつつあり、「生身のコミュニケーション」より「デジタルコミュニケーション」に身を置く時間が長い。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのような背景を踏まえ、かつては当たり前だった「対ヒトとどう関わっていくか」を改めて学んでいく。「基礎」の部分より「実践」を重視し、言語・非言語コミュニケーションのワークショップ、ロールプレイを主にすることで、「生身のコミュニケーション」を体感・実感させる。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		「言語コミュニケーション」の機能を理解し一対一のコミュニケーションで活用することができる。	
	○	○		○		「非言語コミュニケーション」の機能を理解し一対一のコミュニケーションで活用することができる。	
	○	○		○		「言語コミュニケーション」の機能を理解し一対多のコミュニケーションで活用することができる。	
	○	○		○		「非言語コミュニケーション」の機能を理解し一対多のコミュニケーションで活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成ハンドアウト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・オリエンテーション ・「対人心理学」とは					
	2	授業内の傾聴訓練で「自分のこと」を語るできるよう、ワークを通して「自分とは」を自分自身で知る				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	3	「自分を知る」① のグループシェアリング&全体シェアリング				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	4	「聞く」と「聴く」の違い・「受容」と「傾聴」の実践				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	5	・パーソナルスペースとは ・パーソナルスペースの確認				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	6	「言葉」をどう届けるか。「届け方」を視覚化することで「会話」の重要性を学ぶ。(「会話のキャッチボール」ワーク)				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	7	「言葉」をどう届けるか。「届け方」を視覚化することで「会話」の重要性を学ぶ(「前向き・後ろ向きでく声を届ける」ワーク)				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	8	「言葉」をどう届けるか。「届け方」を視覚化することで「会話」の重要性を学ぶ(「前向き・後ろ向きでく声を届ける」ワーク)				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	9	・表情・パーソナルスペース で与える印象 「『お座りください』ワーク」				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	10	・表情・パーソナルスペース で与える印象 「『お座りください』ワーク」				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	11	・表情・パーソナルスペース で与える印象 「『お座りください』ワーク」				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	12	「課題」をグループ全員の協力で達成する 「サークルに入れる?ワーク」				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	13					配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
	14	「アイスブレイク」として使えるツール 体験				配布プリントをしっかりと復習しておくこと	
15	言語・非言語コミュニケーションとは・グループでの協力とは				配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	発表				○		30%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は定期試験(科目履修認定)を受験することができません。						

科目名	音楽療法					
科目名(英)	Music-instructors					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村上京子・亀谷菜	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	福祉心理学科					
授業概要	精神保健福祉及び社会福祉領域に関する学問をベースに、心理学やカウンセリング技術、セラピーなどの学びと共に、音楽を通して実践することで主に高齢者の介護の中での音楽活動をベースにより良質な援助の技術の習得を目指す。					
授業形式	講義: ○	練習: △	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	講義	練習	実習	実技		
	○				高齢者の年齢を考慮した歌唱の紹介	
		○			声を出して歌う、対象者に理解していただく様に歌う	
			○		季節の話、歌の解説、時代背景、などの理解の上で対象者への適切な説明指導が出来るか	
				○	介護施設での対象者へのコミュニケーション、授業内容を理解し現場展開できるか	
テキスト・教材 参考図書	ひかりのくに株式会社 高齢者の為の音楽療法的音楽活動入門					
授業計画	回数	授業項目・内容			曲目	
	1	音楽療法のDVD鑑賞 授業内容の説明			歌唱「ウンパッパ」リズム活動	
	2	去年の現場実習DVDを見て、現場実習の様子を知る。			うさぎとかめ・春の小川・春が来た	
	3	現場でよく使われている歌を使って、身体活動や楽器活動の解説・練習			あんたがたどこさ・朧月夜・一番ぼし見つけた	
	4	歌唱・身体活動・ミュージックベル・トーンチャイムなどの音楽活動			ふじの山・ゆりかごのうた・青い山脈	
	5	歌唱・身体活動・ミュージックベル・トーンチャイムなどの音楽活動			荒城の月・サザエさん・バラがさいた	
	6	歌唱・身体活動・ミュージックベル・トーンチャイムなどの音楽活動			夏は来ぬ・故郷・いい湯だな	
	7	歌唱・身体活動・ミュージックベル・トーンチャイムなどの音楽活動			おさるのかごや・村祭り・上を向いて歩こう	
	8	現場実習に向けて、当日の活動プログラム作り			各プログラムの曲を、活動内容にそって練習	
	9	プログラムごとの活動分担割り決め				
	10	実践プログラム活動の担当練習				
	11	実践プログラム活動の担当練習				
	12	実践プログラムグループごとのMC、演奏、活動方法の練習確認				
	13	実践プログラムグループごとのMC、演奏、活動方法の練習確認				
	14	特別養護老人ホームシティケア博多 現場実習				
15						
評価方法	現場実践の展開をコミュニケーション技能として評価。歌をうたう、リズム楽器を適切に使用できる実践技能を評価。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		コミュニケーション技能		実技・実践	意欲・態度	評価割合
	実技発表	◎				40%
	実技実践			◎		50%
	出席状況				○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	レクリエーション I						
科目名(英)	recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田譲二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。レクリエーションは、福祉社会の中での役割として生活の自立を促し人生の充実を図ると同時に協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる	
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レクリエーションの本質ならびに支援について(理論)				配布プリントを確認しておくこと	
	2	レクリエーションの素材の体験① (アイスブレーキングの方法)				配布プリントを確認しておくこと	
	3	レクリエーションの素材の体験② (仲間づくりのためのゲーム)				配布プリントを確認しておくこと	
	4	高齢者を支える地域のきずなづくりとレクリエーション(理論)				配布プリントを確認しておくこと	
	5	レクリエーションの素材の体験③ (身近な物でつくるクラフト)				配布プリントを確認しておくこと	
	6	レクリエーションの素材の体験④ (身近な物を使っての遊び)				配布プリントを確認しておくこと	
	7	コミュニケーションと信頼関係づくり(理論)				配布プリントを確認しておくこと	
	8	レクリエーションの素材の体験⑤ (良好な集団づくりゲーム)				配布プリントを確認しておくこと	
	9	レクリエーションの素材の体験⑥ (意欲を引き出す遊び)				配布プリントを確認しておくこと	
	10	企画をするために必要なことについて(理論)				配布プリントを確認しておくこと	
	11	グループワーク・トレーニング① (レクリエーション演習)				配布プリントを確認しておくこと	
	12	グループワーク・トレーニング② (レクリエーション演習)				配布プリントを確認しておくこと	
	13	レクリエーションを対象者に合わせるアレンジ(理論)				配布プリントを確認しておくこと	
	14	レクリエーションの素材の体験⑦ (折り紙の世界)				配布プリントを確認しておくこと	
	15	レクリエーション I のまとめ(理論)				配布プリントを確認しておくこと	
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)				◎	○	30%
	授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	グローバルシティズンベーシック I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1	時間数	8コマ	担当者	前田浩明		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科科 1年						
授業概要	この科目では、世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に協力できる人を目指すことを目的とし、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)について学ぶ						
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					麻生塾の求めるコンピテンシーについて理解する。	
		○				日常生活で意識して行動にうつすことができる。	
		○				キャリアビジョンをもち、その目標達成への具体的な行動を述べるができる。	
		○		○		授業で学んだことに対して自分の考えをレポートにまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	2	「協働」の態度を持った学生生活				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	3	よりよい人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	4	マナーの本質 I				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	5	マナーの本質 II				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	6	グローバルシティズンとしての日常				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	7	グローバルシティズンとしての目標				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	8	グローバルシティズンとしての「志」にむけて				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループワークでの参加状況 (3)授業中の態度(居眠り・私語・積極的な発言)以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、R評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート		○		○		50%
	出席状況				○		20%
演習(グループワーク)		○		○		30%	
履修上の注意	レポートは期限を守る。誤字・脱字がないか確認し丁寧な字で記入する。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	地域福祉の理論と方法 I									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	高崎 修一			
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	福祉心理学科 1年生									
授業概要	地域福祉の重要性を学ばせる。そのためには地域福祉に関わる考え方、言葉などを理解してもらい、また先人たちがいかに福祉に関わり、社会福祉を担うことは地域福祉を推進することであるといわせるまでの歴史をたどってきたか、又その歴史に学ぶところはないかを考えていただきたい。そして後期の地域福祉に関わる実践的事項につなげる授業をしていく。									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					地域福祉に関わる言葉の理解。地域福祉の実践に備える。				
		○				基礎的知識をつけそれを応用できるような人材を目指す。				
				○		授業に対する熱意、地域福祉をどのように関わっていけるのか理解。				
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房 よくわかる地域福祉 第5版									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	地域福祉の初めに、地域とは、福祉とは、日本の現状とは					授業外学習は無し。 教科書に記載のない最近の動向についても適宜講義を行う。			
	2	福祉サービスとは、福祉専門職の心構えとは、地域福祉の必要性								
	3	地域福祉の登場背景、相互扶助、結、もやい、講								
	4	地域福祉の2つの機能、個別支援的、地域支援的機能、実践事例								
	5	社会福祉基礎構造改革、必要性。地域福祉の理念								
	6	地域福祉の構成要素、岡村、永田、右田等の理論。コミュニティとは								
	7	地域福祉用語、コミュニティケア、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン								
	8	地域福祉用語、ボランティア、協働・パートナーシップ等								
	9	地域福祉用語、エンパワメント、ストレングス、アドボカシー、地域自立								
	10	地域福祉計画の意図、英国の福祉の歴史的展開(ヘンリー8世以後)								
	11	英国の福祉の歴史的展開(ブレア、ブラウン)、米国の福祉の歴史								
	12	米国の福祉の歴史的展開(オバマ政権、オバマケア迄)								
	13	日本の福祉の歴史的展開(仏教伝来、慈悲の心、福田思想より戦前)								
	14	日本の福祉の歴史的展開(戦後福祉3法、6法から基礎構造改革)								
15	社会福祉法等、地域包括、地域共生社会の実現、振り返り									
評価方法	前期は小テストは実施せず、正試験での評価がほとんどを占めるが、授業態度、熱意も加味したい。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	正試験		◎				90%			
	小テスト						前期は無し			
	授業態度				○		10%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験の受験資格を与えない。									

科目名	マナー I								
科目名(英)									
単位数	2		時間数	30		担当者	小川智子		
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年生								
授業概要	福祉従事者としての立ち居振る舞いについて考え 豊かな対人コミュニケーションの為に正しい言葉遣いとマナーを身につける								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
		○				第一印象の重要性について理解できる			
	○					場面に応じた正しい言葉遣いについて理解できる			
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る			
		○				社会生活の中で正しいマナーについて理解し活用することが出来る			
				○		愛される福祉従事者としての立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る			
テキスト・教材 参考図書	プリント								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	授業オリエンテーション、好印象の自己紹介							
	2	マナーとは（第一印象の重要性）				予定項目について自分の考えをまとめておく			
	3	正しい姿勢と立ち居振る舞い				予定項目について自分の考えをまとめておく			
	4	マナーの基本①				配布されたプリントを読んでおく			
	5	マナーの基本②				配布されたプリントを読んでおく			
	6	あいさつ・受け答え				配布されたプリントを読んでおく			
	7	話し言葉と敬語①				配布されたプリントを読んでおく			
	8	話し言葉と敬語②				配布されたプリントを読んでおく			
	9	話し言葉と敬語③				配布されたプリントを読んでおく			
	10	話し言葉と敬語④				配布されたプリントを読んでおく			
	11	言葉の選び方・表現の方法①				配布されたプリントを読んでおく			
	12	言葉の選び方・表現の方法②				配布されたプリントを読んでおく			
	13	目上の人とのコミュニケーション①				配布されたプリントを読んでおく			
	14	目上の人とのコミュニケーション②				配布されたプリントを読んでおく			
15	総まとめ				配布されたプリントを読んでおく				
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	◎				70%		
	グループワーク・発表				◎		30%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	発達心理学						
科目名(英)	developmental psychology						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大黒剛		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	この講義では、人間の発達について理解を深めることを目指します。乳幼児期、児童期、青年期までの各段階の特徴を、知覚と運動、知能と言語、感情、遊びと社会性などの観点から説明します。成人期、高齢期の発達特徴と課題について「生きがい」と関連して説明します。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					発達には段階があり、各段階にはそれぞれ発達上の課題があることを理解する。	
	○	○				発達の多様性について理解することができる。	
		○		○		発達上の課題を効果的に支援する方法について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 発達心理学～乳児期から老年期まで～ 近畿大学九州短期大学 ・参考資料等、適宜配布する 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達心理学とは、発達のとらえ方 遺伝と環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	現代の発達理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	運動発達、身辺自立				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	言語の発達、コミュニケーション				教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと	
	5	感情の発達、遊び				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	社会性の発達 対人関係、母子関係、愛着				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	自己概念(仲間関係)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	自己概念(セルフイメージ)				教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと	
	9	青年期の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	成人期、高齢期の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	成人の特徴と生きがい				教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと	
	12	心理検査について(発達検査、認知症検査)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	高齢期の特徴とデスエデュケーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	心理的アプローチと支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	自己分析、全体の振り返り				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中でワークプリント作成を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	ワークプリント	◎	◎		◎		20%
	ワーク結果発表	○	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が2/3以上に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						